博物館ニュース
Museum News

徳島県立博物館
No.128
2022年9月15日発行

八十八ヶ所四国霊験記図会
（徳島県立博物館蔵）

杖を持ち笈を背負う旅人

描かれた「阿波の旅人」

江戸時代の阿波国では、四国遍路をはじめとする信仰・巡礼の旅が盛んになりました。「八十八ヶ所四国霊験記図会」は、明治19年（1886）に出版されたものですが、江戸時代後期の遍路の霊験譚（逸話）が数多く収録されています。図は、一番札所の霊山寺の場面で、手を合わせ祈る人びとの他に、多くの旅人が描かれています。

特別陳列「阿波の旅人―旅と名所の江戸時代―」（会期：令和４年10月15日(土)～11月27日(日)）では、「阿波の旅人」がのこした旅日記など、関連資料を紹介します。

（歴史担当：松永友和）

恐竜だけじゃない、徳島県勝浦町の化石たち

小布施彰太

はじめに

徳島県勝浦町では、2018年に恐竜化石含有層（いわゆるボーン・ベッド）が見つかって以来、当館が中心となって本格的な発掘調査が行われています。この恐竜化石含有層は、約１億3000万年前（前期白亜紀）と日本の恐竜化石の産出層としては古い時代のものの一つで、日本の恐竜研究において大きな意義をもたらしています。発掘の成果として、恐竜化石が総計21点発見されており（2022年９月現在）、徳島県は四国・中国地方において最大の恐竜化石の産出地となっています。そんな勝浦町の恐竜化石含有層ですが、見つかる化石は何も恐竜だけではありません。

カメ類の化石

脊椎動物（背骨のある動物）の中でも最も多く発見されるのがカメ類の化石です。カメ類の体を覆う頑丈な甲羅は、いくつものパーツが組み合わさってできており、それがバラバラになったものが化石としてよく見つかります（図１）。発掘現場からは少なくとも３種類のカメ類の化石が見つかっており、中でも「スッポンモドキ科」というグループのカメ類は、勝浦町から見つかっている化石が世界でも最も古い記録になります。スッポンモドキ科のカメ類は、現在はオセアニア（オーストラリアなど）のみに生息していますが、化石種は前期白亜紀のアジアに出現し、その後世界中に広がっていました。勝浦町で見つかる最古のスッポンモドキ科化石はこのグループの起源に近いと考えられ、その進化を探る上でとても重要となります。

図1
カメ類の甲羅の化石
（上からスッポン上科、シンチャンケリス科、スッポンモドキ科）

魚類の化石

次に多く発見されるのが魚類の化石で、特に「ガノイン鱗」とよばれる鱗がよく見つかります（図２）。「ガノイン鱗」は厚みがあり、表面がエナメル層に覆われているのが特徴で、今でもアリゲーターガーなどのいわゆる“古代魚”と呼ばれる魚類に見られます。見つかっているガノイン鱗は、形の特徴から、ひし形のシナミア型と突起が多いレピドーテス型に分けられます。またそれ以外にも、サメやエイのような軟骨魚類の化石が見つかります。ヘテロプチコダス（*Heteroptychodus*）

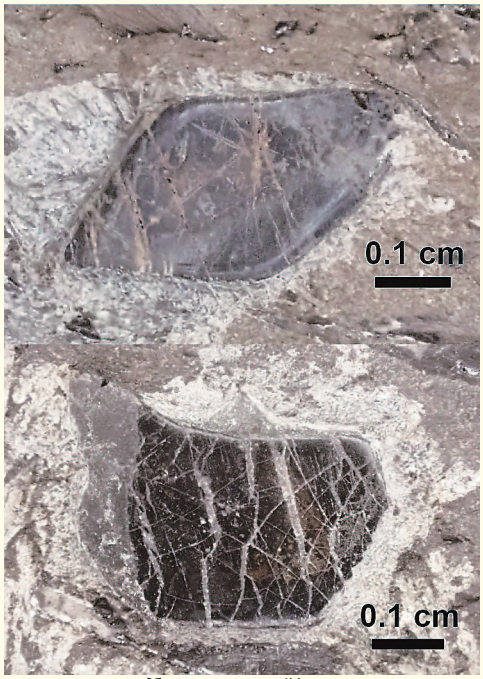


図2　魚類の鱗（ガノイン鱗）の化石
（上がシナミア型、下がレピドーテス型）

という学名が付けられた、淡水や汽水に生息するサメ類の歯の化石です（図３）。その特徴的な丸い歯は、かたいものを砕くのに適しており、よく似た歯を持つ現生のネコザメやトビエイの仲間が貝類や甲殻類を食べることから、ヘテロプチコダスもそれらと同じような食性をしていたと考えられています。

ワニ類の化石

発見されている数は少ないですが、大きな意味合いを持つのがワニ類の化石です。ほとんどが歯の化石ですが、体の骨の化石も見つかっています（図４）。ワニ類の顎には、獲物に突き刺すための円錐形の歯がたくさん並んでいます。歯は生きているうちには何度も生えかわり、そうして抜け落ちた歯が化石としてよく見つかります。ワニ類の化石は、当時の気候などの古環境を知る上で大きな手がかりとなります。現生のワニ類のほとんどは、熱帯や亜熱帯などの一部の地域にしか生息していません。これはワニ類が温度に敏感で、涼しい気候の下では生きていけないからです。この特性は、ワニ類の化石種においても同じであったと考えられています。つまり、ワニ類の化石が見つかるということは、その地域がそれらも生息できるような高い気温の環境であったという証拠になるわけです。

おわりに

これまで紹介してきたように、勝浦町の約１億3000万年前の地層からは、恐竜を含めた多様な生き物の化石が見つかっています（図５）。当時の生物相を明らかにし、他の地域との共通点・相違点を見ていくことで、その場所がどのような環境にあったのか、また古生物の進化においてどのような役割があったのか、ということを解き明かしていくことができます。勝浦町の恐竜化石発掘調査は引き続き行われていきますので、これからも新しい発見にご期待ください。　　（地学担当）

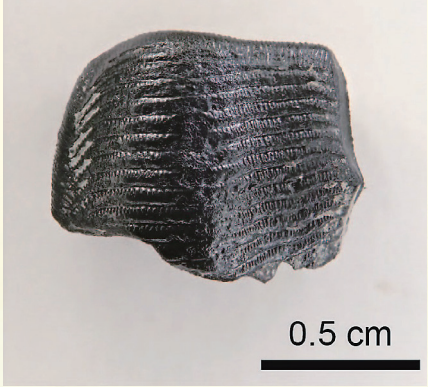


図3　ヘテロプチコダス（サメ類）の歯の化石

図4　ワニ類の歯（左）と椎骨（右）の化石

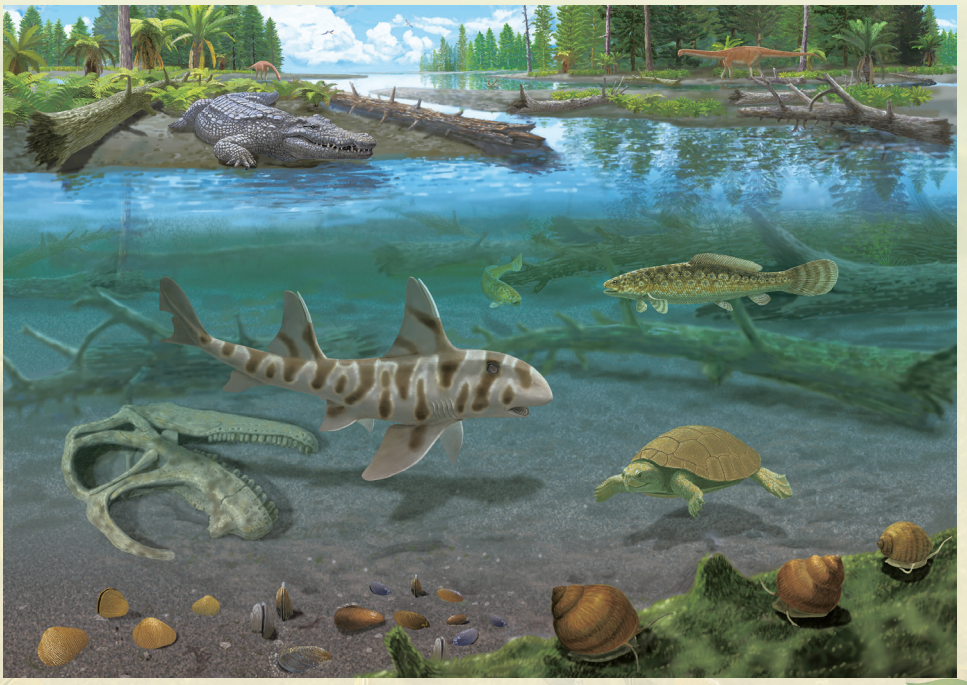


図5　復元された勝浦町の1億3000万年前の環境（画：山本匠）

令和４年度特別陳列

阿波の旅人
―旅と名所の江戸時代―

江戸時代は、「旅が大衆化した時代」といわれます。身分や階層、年齢、性別を問わず、多くの人びとが寺社参詣や湯治、物見遊山などの旅を行うようになりました。阿波国（徳島県）では、四国遍路をはじめとする多様な信仰・巡礼の旅が盛んになり、さらに旅の発展とともに各地で名所が成立していきます。

この展示では、阿波を行き交う旅人や阿波を出発し他地域へとおとずれた旅人に焦点をあて、「阿波の旅人」がのこした旅日記や納経帳など、関連資料を紹介します。

〔会　　期〕

令和4年10月15日（土）～11月27日（日）

〔開館時間〕 9：30 ～ 17：00

〔会　　場〕 博物館１階　企画展示室

〔休 館 日〕 月曜日

〔観 覧 料〕 無料

展示構成

Ⅰ 信仰・巡礼の旅

1. 四国遍路
2. 金毘羅参り
3. 西国巡礼
4. 伊勢参り

Ⅱ 旅の諸相

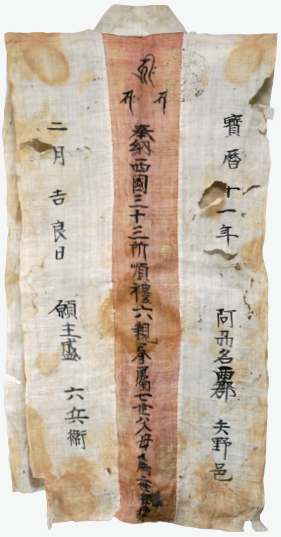
1. 行商・生業の旅
2. 武士の旅

Ⅲ 名所の成立

1. 阿波の名所
2. 各地の名所

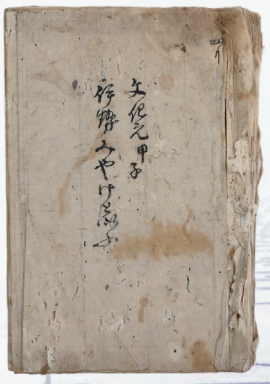
四国旅日記（表紙）
（徳島県立博物館蔵）

（冒頭部分）

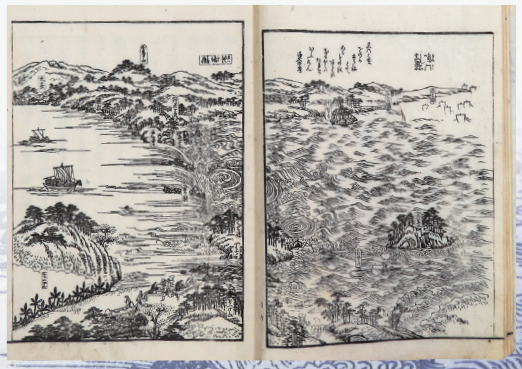


笈摺（西国巡礼）
（徳島県立博物館蔵）

象頭山参詣道紀州加田ヨリ讃岐廻并播磨名勝附
（徳島県立博物館蔵）



文化元年（1804）の旅日記
「伊勢みやけしふ」（個人蔵）



阿波名所図会（鳴門真景）
（徳島県立博物館蔵）

展示解説

〔日時〕 ①10月15日（土）
②10月30日（日）
③11月12日（土）
④11月27日（日）
いずれも13:30～14:30

〔会場〕博物館１階　企画展示室

〔備考〕参加無料、事前申込み不要

速報

大久保家から寄贈された漆器類
―半田漆器に関わる資料―

半田漆器は、江戸時代から昭和にかけて、現在の徳島県美馬郡つるぎ町半田の地で生産されました。もとは木地師が挽いた素木の椀や盆だったものを、漆を塗って出荷したのが始まりといわれます。宝暦８年（1758）に、敷地屋利兵衛が半田村内に塗り物を扱う店を開いたのが、発展の端緒と伝えられます。文化８年（1811）には徳島藩によって塗物御問屋が設置され、保護と統制を受けるようになります。阿波のほか、近畿の大坂、四国の讃岐、中国の備中、備後、安芸などで販売され、やがて山陰や九州、関東方面へも出されました。

明治になり藩の関与がなくなると、敷地屋利兵衛の子孫である大久保弁太郎が、半田漆器の製造販売を一手に握ります。木地師、指物師、塗師などの職人を使い、日用品の漆器を製造して国内で売りさばき、資産を築きました。しかし弁太郎は大正8年（1919）に没し、大久保家は同15年（1926）に廃業します。また明治の後半からは製造業者の分立がはじまり、やがて自立した塗師による零細経営に移行します。産業としての半田漆器は次第に衰え、昭和40年代に幕を閉じました。

半田漆器の製造販売には、大久保家を中心とする敷地屋一統が長らく力を振るいました。当館は、敷地屋大久保家の末裔の方から、令和４年６月に漆器類約1,300点の寄贈を受けました。

これらの漆器は、大久保家が自邸で使用した食器が主体であり、半田漆器と他産地の漆器が混ざっています。大半の漆器は、墨書のある木箱に収納されますが、墨書と中身が一致しないものが多く、受け入れに当たり応急的に組み合わせを復元しています。また半田の産と思われる漆器は、墨書と中身がたとえ一致しても、塗り直しなどの修復を受け、同じ仕様の別の品に差し替わっている可能性があります。

以上のような問題はありますが、大久保家の漆器類は、半田漆器を理解するうえで非常に重要な資料といえます。漆器はもともと産地や年代の判定が難しいといわれます。今日一般の方が、江戸から昭和の間に作られた、確かな半田漆器を目にする機会はあまりないと思います。寄贈品の整理が進めば、確実な半田漆器が示され、技術的な面にも踏み込んで検討できるのではないかと期待されます。

（美術工芸担当：大橋俊雄）

図1　丸膳　　嘉永５年（1852）作
赤色の漆を施した膳。内面にはケヤキの木目があらわれます。

図2　平椀
蓋付の平らな椀。外側に濃い緑色の漆、内側に赤色の漆が塗られます。
緑漆塗は、庶民の漆器では上等な仕上げでした。

情報BOX

かがやく生き物

本紙で何度か紹介しましたが、生き物にブラックライト（紫外線）を当てると、蛍光を発して光る場合があります。例えば、ピーマンの断面は青や赤など複雑に光ります。

当館では2023年夏に、それらを展示する企画展「かがやく生き物」を開催する予定です。それに先がけ、常設展の自然史コレクションのコーナーで、「かがやく生き物プレビュー」として、ブラックライトで「かがやく生き物」をちょっとだけお見せしています（2023年４月２日（日）まで）。その中から、ブラックライトで強い蛍光を発して、まさにかがやくものを２つ紹介します。

海藻サンゴモのなかまは、磯に生えるピンク色の海藻で、体がサンゴのように固いのが特徴です（図１上）。これにブラックライトを当てると、強く金色にかがやきます（図１下）。写真では、その様子を十分表現しきれませんが、とても美しく、その光りかがやく様子は圧巻です。

ホタルブクロは、初夏に咲かせる多年草で、蛍を入れて楽しめるような大きな釣り鐘状の花を咲かせることからその名が付きました（図２上）。ブラックライトを当てると花の付け根が本当に蛍が入っているような色で光ります（図２下）。袋のようになった花びらの内側が光り、その光が花びらを透けて見えています。昔の人はブラックライトを持っていなかったので、このような様子を見て名付けたわけではありませんが、まさに蛍袋の名前にぴったりの現象です。

私たちのまわりには、ブラックライトで光るものがたくさんあります。それを探すのは新しい発見があり、驚きの連続でとても楽しい経験です。来年夏の企画展では、「かがやく生き物」をたくさん展示する予定なので、今まで見たことのない世界にご期待ください。　（植物担当：小川　誠）

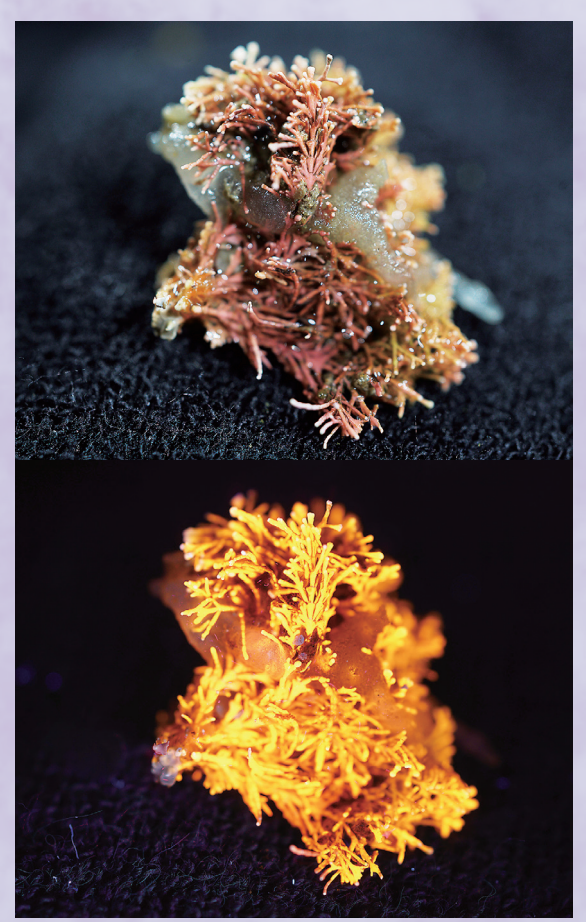


図１　海藻サンゴモのなかま
上：通常の光で見た時　下：ブラックライトを当てた時

図２　ホタルブクロ
上：通常の光で見た時　下：ブラックライトを当てた時

レファレンスQ and A

家の裏に「おふなとさん」と言う神様の祠があります。何の神様ですか？

「おふなとさん」は『日本書紀』にみえる岐神（来名戸祖神）、『古事記』にみえる衝立船戸神に由来する神様と考えられています。伊弉諾尊が黄泉平坂で伊弉再尊から逃れた後になげた杖から化生した神で、道の分岐点などにまつられ、邪霊の侵入を防ぐ道祖神の一種とされています。

徳島県内では、おふなとさんが1000ヶ所以上でまつられ、全国的にみてとても珍しいとされています。特に名西郡神山町では767例のおふなとさんの祠が報告されており、道だけではなくいろいろな場所でまつられています（図１）。

おふなとさんをまつる所では、おふなとさんは「子沢山の神」で「子育ての神様」「子授けの神様」とする、邪霊を防ぐ道祖神とは説明できないような伝承があります。これは、『日本書紀』『古事記』において岐神に化生する杖を境に、伊弉再尊が約束を守らなかった夫への復讐として「一日千人の命を奪う」と言ったのに対し、伊弉諾尊は「一日千五百人の子作りをする」と言い返したとする神話の内容が、おふなとさんを子沢山の神とする信仰に転化したからと考えられています。

では、なぜ徳島県内、特に神山町に集中しておふなとさんがまつられているのでしょうか。

『日本三代実録』の貞観14年（872）11月29日に、平安京に怪異が発生し、これを静めるために、朝廷が阿波国所在の「船盡比咩神」の位を正六位上から正五位下に上げたとの記事があります。神山町の東境辺りには、神山町阿野歯ノ辻に「船盡神社」（図２）、徳島市入田町大久に「船盡比賣神社」（図３）、徳島市一宮町西丁に「船尽比咩神社」（図４）が存在します。近世末以降、『日本三代実録』所載の「船盡比咩神」がどこに当たるのか諸説あったようですが、最近の研究では船尽比咩神社が最有力視されています。ともあれ、現在の神山町域への入口辺りに、平安時代に朝廷から位を授けられた由緒のある「船盡比咩神」が存在していたため、それにあやかって神山町を中心に、おふなとさんが神様として数多くまつられたものと考えられています。

記紀神話に由来した伝承と、平安時代にさかのぼる神社への崇敬を受け継ぐおふなとさんが、現在まで数多くまつられているのは驚くべきことだと思います。　（民俗担当：庄武憲子）

参考文献：神山町成人大学　1979年　「神山のおふなとさん」
近藤直也　2015年　「岐神信仰の三原理と一仮説
―徳島県名西郡神山町の事例研究から―」
（九州工業大学情報工学研究紀要（人間科学）　第28号）

図1　神山町神領西野間でまつられているおふなとさん家の裏山の祠でまつられています。

図2、図3　船盡神社（左）と船盡比賣神社（右）
船盡神社は歯ノ辻神社とも呼ばれています。船盡比賣神社は船盡神社の遥拝所と説明されています。

図4　船尽比咩神社
最近の研究で、『日本三代実録』所載の「船盡比咩神」に当たるとされています。

10月から12月までの博物館普及行事　あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象（定員）	備考
野外自然かんさつⅠ<動物>	川魚かんさつ秋編★	10月16日(日)	10:00～12:00	要	小学生から一般(15)	徳島市・園瀬川
野外自然かんさつⅡ<植物>	中級クラス植物観察会10月	10月22日(土)	10:00～17:00	要	小学生から一般(10)	弁当・水筒持参
	花巡り！植物かんさつハイキング11月～植物の冬支度を見に行こう！～	11月20日(日)	10:30～17:00	要	小学生から一般(15)	弁当・水筒持参 阿波市金清自然公園
	初めての植物かんさつ(冬編)	12月 4日(日)	13:30～15:30	要	小学生から一般(15)	同日開催「ゼロから始める植物学」
みどりを楽しもう・味わおう	ドングリでピザをつくろう	10月23日(日)	13:00～16:00	要	小学生から一般(24)	
	リースをつくろう	12月11日(日)	13:00～16:00	要	小学生から一般(24)	
たのしい地学体験教室	鉱物を探そう！［愛媛県］	10月 9日(日)	13:00～15:00	要	小学生から一般(25)	愛媛県四国中央市
歴史散歩	たんけん！若杉山辰砂採掘遺跡	10月16日(日)	13:30～17:00	要	小学生から一般(10)	阿南市水井町
	小松島民俗探訪	11月13日(日)	13:30～16:00	要	小学生から一般(15)	小松島市小松島町・中田町等
ワクワクむかし体験	焼き物をつくろう①(成形)	12月18日(日)	13:30～16:00	要	小学生から一般(20)	材料費 300円(高校生以下は不要)①②セット 申込みは12月8日(木)まで 参加費は1回目に徴収
	焼き物をつくろう②(焼成)	1月15日(日)	9:30～17:00			
ミュージアムトーク	ゼロから始める植物学～植物の名前編～	12月 4日(日)	10:30～12:00	要	小学生から一般(20)	同日開催「初めての植物かんさつ」
特別陳列関連行事	特別陳列「阿波の旅人」展示解説	10月15日(土)	13:30～14:30	不要	小学生から一般(20)	
		10月30日(日)				
		11月12日(土)				
		11月27日(日)				
コレクションセクション関連行事	歴史・文化コレクション「土器・焼物大集合」展示解説	11月20日(日)	13:30～14:00	不要	一般	常設展観覧料必要

◎★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。　◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。　◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。

普及行事のお申し込みについて

開催予定日の**1か月前から10日前必着**でお申し込みください。
参加希望者が定員を超過する場合は抽選とし、結果は全員にお知らせします。また、行事の詳細は、当選者にご案内します。
原則として、参加費は無料ですが、材料費をいただくことがあります。

●往復はがきでのお申し込み

1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
下図のように記入し、お申し込みください。

往復はがきの記入例

<往信の表面>	<返信の裏面>	<返信の表面>	<往信の裏面>
63 〒770-8070 往信 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館	何も書かないでください	63 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの郵便番号 住所 氏名	1. 参加希望の行事名 2. 参加希望者全員の氏名(学年・年齢) 3. 住所 4. 電話番号(またはFAX番号)

●電子メールでのお申し込み

1通の電子メールで、1行事のみ申し込むことができます（申し込み締切日の17時まで）。
確実に連絡がとれるよう、携帯電話をご使用の場合は、パソコンからの電子メールを受信できるよう設定してください。
・お申し込みのメールには、必ず次の項目を記入してください。
①参加希望の行事名　②参加希望者全員の氏名（学年・年齢）
③住所　④日中に連絡のとれる携帯電話番号（または固定電話番号、FAX番号）
⑤メールアドレス

※いただいた個人情報は、お申し込みのあった行事についてのみ使用します。
行事申込専用アドレス　mus_event@bunmori.tokushima.jp
詳しくは、徳島県立博物館のホームページをご確認ください。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定を変更する場合があります。詳しくは、徳島県立博物館のホームページをご覧いただくか、お電話でご確認ください。

学校教育に博物館を！

徳島県立博物館のもつ資源（もの・情報・人）を、学校教育の場で有効に活用していただきたいと考えています。

●遠足
●館内授業（博物館で）
●出前授業（学校で）
・学習内容に関する質問や実験・観察の方法など、何でもお気軽におたずねください。動物、植物、地学、考古、歴史、民俗、美術工芸の各専門分野の学芸員がご相談に応じます。お気軽にお電話ください。
●博物館資料の貸し出し
●教材研究のお手伝い

火おこし（出前授業・館内授業）

特典がいっぱい！！徳島県立博物館友の会

博物館友の会は、年間を通してさまざまな体験活動を行い、自然や歴史・文化について、楽しく学んでいます。
個人でも、ご家族でも、ご入会いただけます。みなさんも参加してみませんか。

■**年会費**
・個人会員2,000円
・家族会員3,000円
（10月以降にご入会の場合、会費はそれぞれ半額となります。）

■**会員の特典**
・友の会行事に参加できます。
・友の会の出版物やミュージアムショップの商品を、1割引で購入することができます。
・催し物案内や博物館ニュース、会報などが、毎月お手元に届きます。

化石をさがそう！

詳しくは、友の会事務局まで（電話088-668-3636）

上記お問い合わせは、徳島県立博物館まで（電話 088-668-3636　FAX 088-668-7197）

博物館ニュース No.128
■発行年月日 2022年9月15日
■編集・発行 徳島県立博物館 〒770-8070 徳島市八万町向寺山 TEL088-668-3636 FAX088-668-7197
https://museum.bunmori.tokushima.jp